

滝沢ダム今年度(H23)初の防災操作 ～台風2号に伴う滝沢ダムの防災操作の効果～

【今年度初の防災操作】

台風2号及びその後の温帯低気圧の影響により、5月28日16時過ぎに降り始めた雨は、滝沢ダム流域平均で、降り始めからの総雨量は152ミリに達しました。

この降雨により、滝沢ダム地点の最大流入量は、毎秒105立方メートル(5月29日22:10)に達し、今年度初の防災操作を行いました。

【滝沢ダムで最大毎秒65立方メートルの洪水調節効果を発揮】

この降雨に対し滝沢ダムでは、ダムへの流入水の多くを貯水池に貯める防災操作を実施しました(添付資料1参照)。ダムへの最大流入時には、流入量の約6割の毎秒65立方メートルを貯水池に貯める(毎秒40立方メートルを放流)操作を行いました。

【滝沢ダムの洪水調節による下流河川の水^{タイヘイバン}位低減効果】

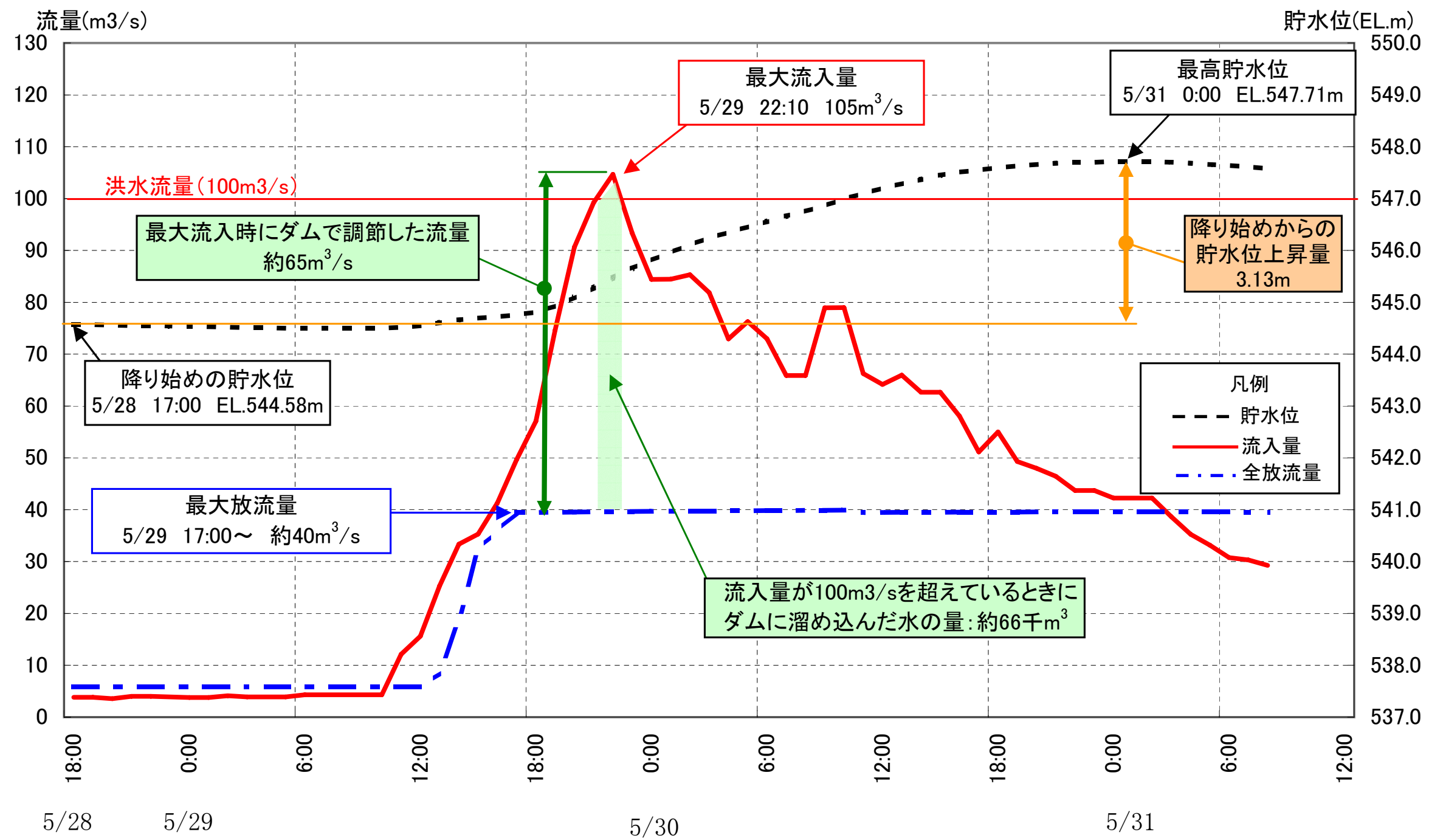
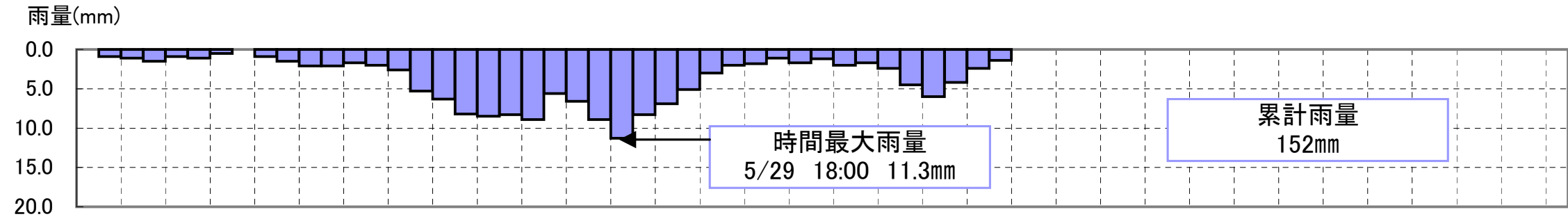
この防災操作は、ダム下流の中津川の^{タイヘイバン}太平橋地点(添付資料2参照)において0.76メートル水位を低下させる効果があったものと推定されます。

今後とも滝沢ダムでは、適切に防災操作を実施し、下流地域の安全性向上に努めていきます。

※ 数値は速報値です

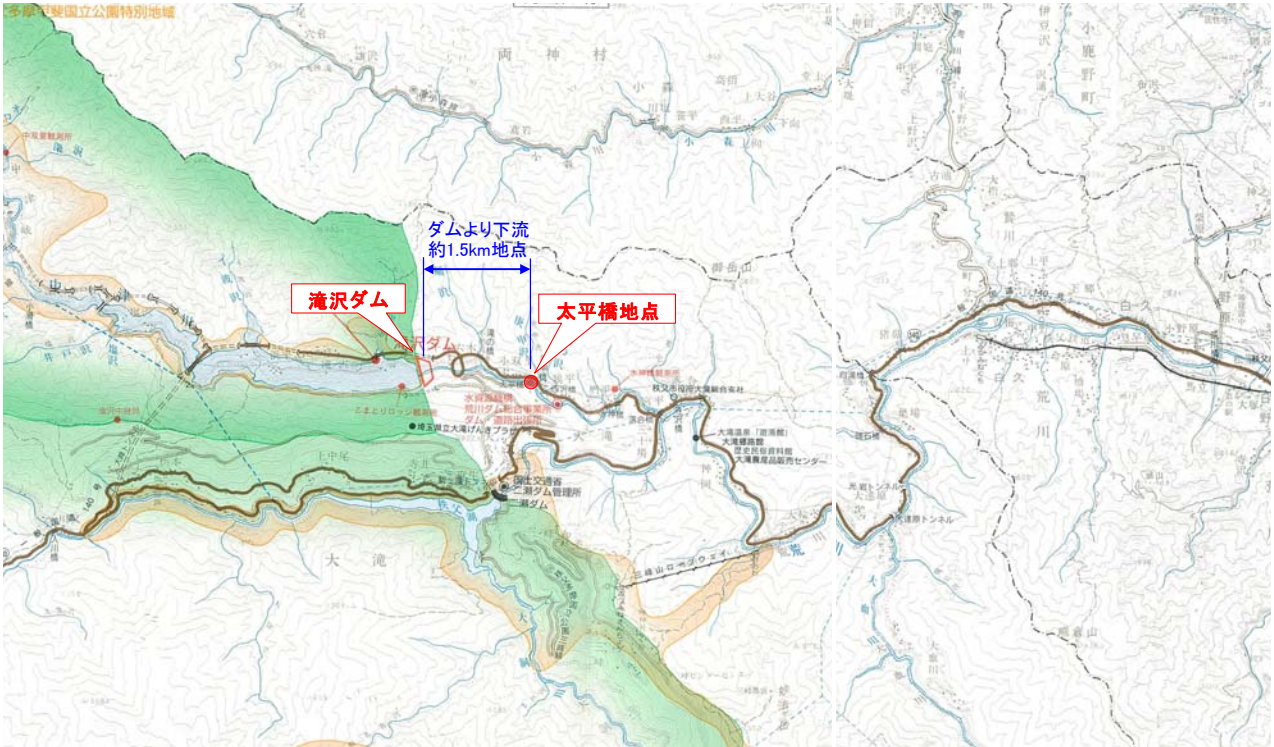
※ 雨量は滝沢ダム流域平均の雨量です

滝沢ダム防災操作図(H23.5.29台風2号)

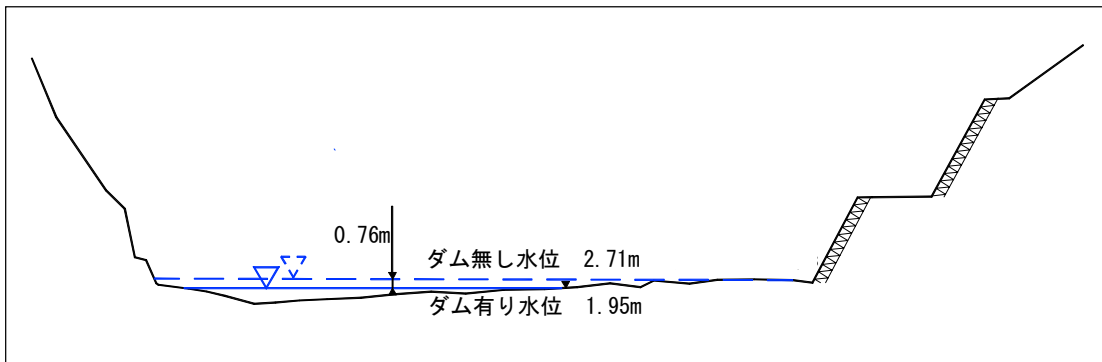


滝沢ダム下流河川の水位低減効果

位置図



中津川 太平橋地点 断面図



太平橋地点下流状況



平常時河川状況



洪水時河川状況 (5月30日)